



ぶらりらいぶらりい

～図書室にはこんな本があります～

No. 127

★利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。
(書名の後の()の数字は請求記号です。)

問) 海軍の兵種の中の主計兵について知りたい。

答) 「海軍 主計兵」をキーワードとして検索してみます。

図書 → ことばから調べる → 海軍 主計兵 ⇒ 41件

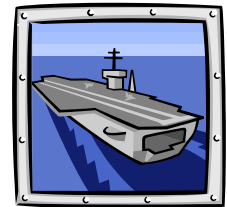
*主計兵の役割の説明など

『無敵日本海軍兵』(916/U14) 閉架書庫

『海軍の科学』(397/Sa85) 閉架書庫

『海軍講義』(397/Sh64) 閉架書庫

『昭和の海軍』(397.21/I41) 閉架書庫



*主計兵のエピソードや様子など

『海軍めしたき物語』(916/Ta33) 閉架書庫

『戦争のなかに生きる』(210.7/A49) 閉架書庫

『輝く海軍写真帖』(397.21/Ko45) 閉架書庫

※主計兵は食事をつくったり、糧食や衣服のことを^{つかさど}掌ったり、会計、経理の仕事にあたる兵隊です。興味がある方は是非、検索してみてください。

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。

検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。

操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。

8/15 終戦記念日を終えて (第1回)

終戦記念日を迎えた先月、中学生から「なぜ原爆が落とされるまで降伏しなかったのか」という質問がありました。また、国内でアメリカ観光客のツアーコンダクターをされている方から、「“原爆が投下されなかったら、戦争が終わらず、もっと多くの人々が戦死していた”というアメリカ人の方がほとんどで、自分は全く反論できないのが悲しい。何か別の観点から論じた本はありませんか？」といった声もありました。

これを機会に終戦に関わった人々の著作等から終戦への流れと原爆開発の流れを3回に渡って追ってみることにしました。

①『終戦の表情』(鈴木貫太郎述 昭和21年発行/392.1 Su96)

* 鈴木貫太郎：終戦時の内閣総理大臣

②『終戦の真相』(迫水久常著 昭和30年発行/210.75 Sa43)

* 迫水久恒：終戦時の鈴木内閣の内閣書記官長

③『日本のいちばん長い夏』(半藤一利著 平成19年発行/210.75 H29)

* 終戦時、帷幕のうちにあった人、前線にいた人、新聞記者等30人が一堂に会し、「その日」を説き明かした座談会(昭和38年開催)をまとめたもの。



=====

第1回は、戦争終結工作の始まりからです。

(②昭和18年9月 岡田啓介や鈴木大将は戦争終結工作を開始し、密かに語り合って先ず戦争を始めた東条内閣をやめさせようとして動き始めた)

昭和20年4月 日ソ中立条約の破棄をソ連が通達/昭和20年5月 ドイツ無条件降伏

昭和20年6月中旬 沖縄戦の敗北が決定的

昭和20年6月22日 御前会議にて“和平実現への努力を”とのことで、本格的に終戦工作が始動。日本政府はソ連に仲介を依頼。(①若しソ連が参戦することになったら、戦争終結の機を掴もうとする努力もその機会も遠のいてゆくことになるので、できるだけ速やかに戦争を終結させるためにソ連へ仲介を依頼した)(③しかし、日ソ中立条約破棄の通告時点で、ソ連に和平工作を頼むというのは実現性がない気がつくべき。ところが破棄されても日本では、一年間の有効期限(期限終了は昭和21年4月)がある、更新しなくても大したことはないような感覚でいる。この時に、ソ連の日本侵攻は既定路線になったことを、少なくともそういう意図があることを見抜かなきゃいけない。)

かなり早い段階で、終戦に向けて動き始めていた日本政府ですが、軍部内では戦争続行の意志が強く、水面下で慎重に動いていたようです。次回はポツダム宣言にまつわる話をしたいと思います。乞うご期待!

* () 内の記述は上記資料より、先頭番号は該当資料の番号。

=====

～図書室より～

今年の夏は暑くて疲れました。まだ暑い日があるかもしれませんが、うまく乗り切っていきたいものです。

入口のガラスケース内の資料は3ヶ月展示となっています。展示後は閲覧可能ですので、どうぞご利用ください。

ぶらりらいぶらりい ～図書室にはこんな本があります～ NO. 127

2010年9月20日 発行/ 編集・発行 昭和館 図書室 〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-6-1